平一四年八月から同一七年五月の紫香楽宮存続期間に含まれることが既に指摘されている（鈴木良章・栄原永遠男「紫香楽宮関連遺跡の調査―宮町遺跡の発掘調査を中心に―」『条里制・古代都市研究』一六、二〇〇〇年）。今回の事例も、この期間に含まれるものである。

この他、「難波宮」と記されたと思しき削屑(41)の存在も注目される。天平一六年二月、聖武天皇は難波宮から紫香楽宮へ行幸するなど（『続日本紀』）、両者の関係が密接であったことはいうまでもないが、今後の調査の進展により、両者の関係が出土文字資料の面からも明らかになることが期待される。

なお、木簡の釈読は、紫香楽宮跡調査委員会（木簡解読部会）における検討結果に基づくものである。

（古市　晃（大阪歴史博物館））

**文化財写真に携わる人の必携マニュアル**

『埋文写真研究』十三号

埋蔵文化財写真技術研究会編

巻頭言　上原真人

特集　「今　なぜ銀塩か？」　井上直夫

その後のキトラ古墳　中村一郎

CCDを利用した赤外線写真撮影　広瀬繁明

「報告書」は再生紙で？　杉本和樹

何でこうなるの？失敗写真の舞台裏　他

在庫状況のお知らせ

頒価　一～四号　品切れ　五～八号　三五〇〇円

九号　三〇〇〇円　十～十三号　三五〇〇円

送料　一冊～四冊まで　五〇〇円

五冊～十冊まで　一〇〇〇円　一一冊以上　無料

ご注文は、当研究会まで直接お申し込みください。

ご送金は、郵便振替でお願い致します。

宛先　〒六三〇―八五七七　奈良市二条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所気付　埋蔵文化財写真技術研究会

電話　〇七四二―三〇―六八三八

郵便振替　口座番号　〇一〇五〇―九―九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会宛